社会福祉法人 啓友会 広報紙

なんかい

NANKAI
vol.118
2020.5

南海寮 広報委員会
熊本県天草市本町下河内1685番地の1
TEL 0969-23-3850
FAX 0969-22-4977
Mail keiyukai@cup.ocn.ne.jp
URL http://www.nankairyou.or.jp/

臨時休校により、施設の運動場でサッカーをして遊ぶ児童ら

口腔ケアと感染症予防

副施設長　松浦光毅

「コロナが流行している今だからこそ、口腔ケアの重要性を広く訴え、ケアに力を入れていきたい……――。」

3月中旬、普段からお世話になっている訪問歯科診療機関の代表の方より前述した内容の相談がありました。当施設では、歯科通院が困難な利用者に対して、10数年前より当該機関による訪問診療を受けており、週1回診療に来ていただいております。もちろん、当施設以外にも他の社会福祉施設や医療機関、在宅への診療も普段は行われておりますが、今回のコロナウイルス感染症の影響を受け、医療機関や在宅への訪問に制限が出た事で、その分施設への訪問診療回数を増やせるとの事でした。

実際に、週1回の訪問診療で、治療を含む口腔ケアを受診できる人数は限られており、概ね1人が月1回程度受診されております。支援員が普段から食後の口腔ケアは丁寧に行っていますが、それだけでは不充分なため、医師や衛生士による専門的かつ定期的なチェック・ケアが必要です。また、感染症流行の今だからこそ、予防の観点からケアを充実させていく事は重要であると感じました。

口腔ケアの重要性については、様々な臨床研究結果や医学的なエビデンスが次々に報告されており、感染症予防だけでなく、健康そのものに直結する事として認識されています。昨年度末の参議院予算委員会でも、生涯を通じて歯科健診を行う事が、結果的に国の医療費を抑えられるとの答弁もありました。当施設でも、口腔ケアへの取り組みによって、摂食嚥下機能の向上はもちろん、利用者の発熱等の回数が劇的に改善された実地経験があり、その取り組みを継続しております。

看護師や支援員とも相談し、コロナが終息するまでの間（訪問歯科が通常営業できるまで）ではありますが、週2回の訪問診療をお願いしました。訪問歯科の代表者は帰り際、「思うように訪問ができない危機的状況に悲観しても仕方ない。やれる事はある。感染予防の取り組みを歯科の立場から取り組んでいきたい」と力強く話されていました。私たち福祉施設の現場でも、手洗い、消毒、換気、適度な運動、そして「口腔ケア」とまずは基本的な感染予防の徹底に努めています。

地域発生や施設内感染など、いつ起こり得るかもわからない事態に戦々恐々としておりますが、水際対策も含めて、様々な事を想定しながら対策・措置を実施しております。その中で、面会や外泊など様々な制限を利用者・ご家族、関係者の皆様にもお願いをし、ご不便をお掛けしておりますが、制限の中でも、普段の暮らしを利用者の方に楽しんでいただけるような工夫は、できる限り感染予防と両輪で行っていきたいと思います。

支援の現場から

支援内容や取り組み等をご紹介いたします。

面会・外出制限の中で ～Kさんへの取り組み～

生活支援員　大中 佑介

入所利用者のKさんは、2週間に一度の母親との外出・外食を楽しみにされています。外出をされる時には、ご本人が決めているルーティーンがあり、立ち寄る先（お店）や、そこで食べるものが決まっています。例えば某コンビニの唐揚げやロールケーキ、某商業施設のアイスクリームなど本人が指定するものがいくつかあり、それらを外出時に全て食べる事が習慣となっています。

しかし、現在施設では感染予防の観点から、ご家族の面会や利用者の外出・外泊等についても制限をさせていただいております。そんな中、Kさんの母親との定期的な外出・外食についても、商業施設やコンビニなど不特定多数の方が訪れる場所を行き来される事から、感染の可能性が高いため、しばらくの間は控えていただくことをご家族とも相談をして決めました。とは言え、ご本人にとって、パターン化した行動や習慣、楽しみにされている事を制限され、できなくなる事は大変受け入れがたいことです。

そこで、ご本人の習慣や要望に少しでも応えるべく、いつも外出時に食べられているものを職員が定期的に購入・準備し、提供することとしました。もちろん現在の状況や外出が難しい事もイラストを用い説明。また、自室のカレンダーに記入してあった母親との外出日は、こちらで購入してきたものを提供する日に変更し、可視化して説明を行いました。職員の声掛けや対応も統一し、ご本人にもある程度は理解を頂いております。外出等の制限をお願いして2ヶ月近く経ちますが、不穏な様子もなく現在の状況を受け入れ、順応して下さっています。

自粛や制限が「いつまで」とお伝えすることが難しい中で、利用者やご家族の皆様には大変ご迷惑をお掛けしておりますが皆様のご協力のお陰で感染予防対策を実施できている事に感謝いたします。

一緒にやってみよう ～Aさんへの取り組み～

生活支援員　浦上 寛司

私は支援の際、「一緒にやってみよう！」という事を大切にしています。様々な取り組みを行っていますが、今回はAさんへの「体を動かす事を増やす」「少しずつ進める」ことの支援についてご紹介します。

Aさんは午後からお気に入りの場所で座って過ごされる事が多く、最近は体重増加も心配される状況です。そこで日課の中で体を動かす機会を見直し、朝礼後のラジオ体操やスクワットをまずは勧めました。初めはすぐに座られていましたが、1カ月後は一通り終わるまで座る事がなくなり、隣で一緒に行っている職員を真似て、両手を頭の後ろに回し、膝を曲げてスクワットも行われるようになられました。午後は食堂掃除（床の汽車拭き）を勧めてみました。最初何をするのかが解らないためか嫌がられましたが、床に雑巾を置く、雑巾に手を置く、進むの行程を職員がゆっくり行い、それ見てもらう事で、3日目には皆と一緒に行えるようになり、今では2往復できます。またモップを使っての掃除もチャレンジし、初めはモップを持って立っているだけでしたが、動かし方など傍で見てもらう事で今ではモップについたゴミを振るい落とす事もできます。

また、足の爪切りが嫌いで切る事ができませんでしたが、爪切り（道具）を紹介し、他者の爪切りの様子を見る。足に爪切りを当てる。実践。と進めて行き、2カ月後、今では時々切ることができています。今後も体を動かす事に楽しさを感じてもらう事はもちろんですが、できるようになったという達成感や満足感も感じて頂けたらと思っています。

個別での支援は、他のスタッフの協力なしには行えません。情報を発信し、相談し、共有しながら今後もチームでの支援を大切にしていきたいです。

～ひな祭り～

photo

～楽器演奏～

photo

～合同学習～

photo

～調理実習～

photo

～お花見～

photo

研修報告

ジャピタルフーズフェア

障がい者施設において求められる管理栄養士とは

管理栄養士　田中　佳子

熊本市桜町に新しくオープンした熊本城ホールにて研修会があり、調理員と一緒に参加させていただきました。「褥瘡損傷治癒と栄養管理」、「低栄養から高齢患者を私たちが守る」と題して、講演がありました。

我が国では、高齢者が要介護状態等になる主な原因として、栄養関係によるものが全体の7割を占めております。今後迎える超高齢社会の健康長寿阻害要因として、生活習慣病対策と共に、低栄養対策が重要となってきます。日本では、過栄養と低栄養とが混在しており、これらに対して十分な栄養支援ができているかという問題があります。実際に在宅にいる高齢者が低栄養により褥瘡が発生し、入院してくる例も多くあります。当施設でも年々高齢化・重度化が顕著となり、時には褥瘡が発生することがあります。そんな時には食事面でも褥瘡対応として、皮膚の再生を促す微量元素を添加した栄養補助食品（ジュースやゼリー※写真上）を提供しています。また、食事摂取量が減ってきて低栄養が懸念される利用者に対しては、嗜好に配慮し食べられる物を探し、個別対応しています。食事を減らして高カロリーのゼリーやドリンク（※写真下）を付加したり、主食をパン食にするなどの対応を行っています。

障がい者施設において求められる栄養士の役割は、献立作成能力や行事運営などに限らず、利用者の障害特性を見極め、身体機能に応じた食事を提供することが重要ではないかと思います。施設は利用者の生活の場です。だからこそ毎日の食事は重要になってきます。

今回の研修会に参加して思ったことは、医療の進歩と共に栄養学も日々進歩しており、私達社会福祉施設の管理栄養士も常に新しい情報と知識を得てスキルアップし、利用者のニーズに合わせた栄養管理が行えるよう仕事をしていく必要性を感じました。

研修報告

施設職員・家族合同研修会

ストレスを受け入れ上手く付き合っていく

支援員　小川　明奈

「未来へ繋ぐ笑顔のバトン」をテーマに施設職員・家族合同研修会があり、職員4名とご家族2名で参加をしてきました。

全体公演は、「ギター和尚」でお馴染みの曹洞宗大悲山向陽寺の住職・渡辺紀生氏による「ギター和尚のお元気説法」と題した講演でした。「世の中は苦悩の連続であり生きる事も苦、老いることも苦、病になることも苦、愛するのものと離れるのも苦。しかし今と言う時間を当たり前のように過ごしている事は奇跡であり、今を大切に生きて下さい。」の言葉が印象に残り、私たちが生きていく中でたくさんの苦がありますが、それをどう乗り越えるかは自分次第だと感じました。平成から令和の時代になり、多くの自然災害を経験してきて、現在は新型コロナウイルスも流行しています。当たり前だと思っている事が本当は奇跡の連続であり、毎日を過ごせることに感謝しなければいけないと思いました。

午後からはそれぞれの分科会に分かれ、私は「ストレスコントロールに役立つセルフケア」という分科会に参加しました。現代では「ストレス」と言う言葉は日常用語になりつつあります。基本的なストレスの対処法としてはまず休養と睡眠を充分に取る事。そしてリラクゼーションとレクレーションが大切だとの話がありました。私も疲れが溜まっていると感じる時や、悩みや不安を感じる時には、休養をしっかり取ったり、適度な運動をして気分を変え、それなりにストレスと付き合えています。

生きていく上でストレスのない人生は無く、誰しもが大なり小なりストレスを抱えています。講師の方より、ストレス学説を提唱したカナダの生理学者ハンス・セリエの「ストレスは人生のスパイスだ」という言葉を紹介されました。ストレスは必ずしも健康や幸せに害を与えるものではなく、忙しい人など適度なストレスがある人ほど満足度は高いそうです。また、ストレスと聞くとマイナスに捉えがちですが、プラスに捉える事で問題解決行動が増え、満足度が上がります。仕事を行っていくうえでストレスは誰にでもあると思いますが、ストレスに負けるのではなく、ストレスをコントロールし上手く付き合っていくことが大切だと感じました。

通所センターだより

今回は調理実習を紹介します。これまでの調理実習は全員で野菜を切ったり、炒めたり、ご飯を炊くなど役割を分担し取り組んでいました。ある日の事、利用者の皆さんに作りたいメニューを尋ねたところ、巻き寿司やハンバーグなど当然ながら各自作りたいものは千差万別です。中には「女性だけで作りたい」等の意見もありました。これらをできる限り実現しようとすると、今までの方法（全員参加）や行程では時間が足りないし、各自の希望に沿うことができないという事で８人程の班に分かれて行ってみました。

１班のメニューは「巻き寿司」。利用者さんも職員も男性のみで構成し、私もメンバーでしたが、いざ作ってみると難しい。欲張って具を多くすると巻けない事に気づきました（笑）そんな微調整をしながら大変楽しそうな皆さんでした。２班は「ハンバーグ」で女性利用者と女性職員で構成。味、見た目、美容も気をつかい野菜たっぷりで作られていました。ハンバーグとごはん、サラダ、スープをワンプレートに盛り付け、ランチョンマットも敷いてまるでカフェ。女性ならではだと感じました。最後の３班は「エビカレー」でまたまた男性のみです。カレーは作った経験のある方ばかりでしたが、ひと手間かけてエビを入れる事でいつもと違う感じでした。味も辛めに作り「ワイルドだろぅ～？」なんて言いながら楽しい調理でした。

調理メンバーが少ないと今までできなかったメニューに取り組むことができ、またそれぞれの役割も増えて皆さん忙しい中でもとても楽しそうでした。これからも希望に沿った色んなメニューにチャレンジしていきたいと思っています。　浦上　寛司

熊本県知的障がい者施設協会のホームページに「京塚香菜」支援員が紹介されています！

熊本県知的障がい者施設協会のホームページ「施設で働くスタッフを紹介」のサイトにおいて、当事業所の京塚支援員の仕事インタビューが掲載されています。ぜひ一度ご覧ください！

http://kumamoto-idwi.net/interview/

■退所（居）利用者
北尾　開 様（入所）
小場佐萌々香 様（GH）
長岡　誓 様（入所）

■退職職員
平田輝孝（調理員）
松本安純（事務員）
岡田　唯（用務員）
小山千尋（支援員）

■新任職員
山口貴巳(支援員)
濱洲信行(支援員)
鬼海慎二(支援員)
立川智恵(事務員)
宮崎範子(調理員)

編集後記

全世界で猛威を振るうコロナウイルス感染を受け、当事業所においても早急に対策を検討し、入所及び在宅利用者のご家族の方々には、感染防止の取り組みに対してご理解、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

３月末、千葉県の福祉施設で集団感染が発生したという報道を受け、同じ現場で働く私たちにとって心痛む出来事となりました。感染対策として注意喚起されている「３つの密（密閉空間、密集場所、密接場面）」は、私たちの現場において避けられない問題ですが職員一同、事業所内で発生させない為の取り組みを日々行っています。また、感染予防のため事業所内のイベントは現在、全て中止させて頂いておりますが、小グループでの誕生会やドライブ等を計画し、利用者の方々へ楽しい時間を過ごして頂く為の取り組みに今後とも尽力していきたいと思います。　大中　佑介

職員研修会等参加報告

■障害者虐待防止・権利擁護研修会(2月)	中嶋
■社会福祉法人会計実務研修会(2月)	佐藤
■日中活動支援部会職員研修会(2月)	松浦徳
■災害対策研修会(2月)	高瀧
■障がい者・高齢者虐待防止研修(2月)	櫻井
■発達障がいの医療・支援を多職種で考える会(2月)	松本か
■社会福祉法人労務研修会(2月)	中嶋
■小規模法人ネットワーク化協働推進研修会(2月)	松浦光
■強度行動障害支援者養成研修(2月)	松本蛍
■天草市中小企業トップ・管理職向けセミナー(2月)	松浦光
■相談支援事業連絡協議会研修会(2月)	山本富

今後の予定

5月1日　　創立記念日

※６月に予定されていた天草地区施設親善スポーツ大会（愛藍ピック）、は中止が決定しております。また、天草花しょうぶまつりも中止が決定しており、以降の施設内行事や地域イベント等についても中止や延期の可能性がございます。

南海寮広報委員会
ご高覧頂き、ご意見・ご感想などありましたら keiyukai@cup.ocn.ne.jp までお寄せ下さい。
機関紙「なんかい」はホームページアドレス http://www.nankairyou.or.jp/ からもご覧になれます。